

国際バカロレア (IB) ディプロマプログラム (DP) 科目概要

「芸術」：「音楽」
2022年第1回試験

ディプロマプログラム (DP: Diploma Programme) は、16歳から19歳までの大学入学前の生徒を対象とした、綿密に組まれた教育プログラムです。幅広い分野を学習する2年間のプログラムで、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する心をもつ人間を育成することを目的としています。また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重し評価するために必要な態度を育むことを目指しています。

DPは、中心となる核(「コア」)を6つの教科が取り囲む構成になっています。生徒は、「言語と文学」(グループ1)と「言語の習得」(グループ2)から現代言語を2言語(または現代言語と古典言語を1言語ずつ)、「個人と社会」(グループ3)から人文または社会科学を1科目、「理科」(グループ4)から1科目、「数学」(グループ5)から1科目、そして「芸術」(グループ6)から1科目を履修します。ただし、「芸術」から1科目選ぶ代わりに、他の教科で2科目選択することもできます。多岐にわたる分野を学習するため、学習量が多く、大学入学に向けて効果的に準備できるようになっています。各教科から柔軟に科目を選択できるため、特に興味のある科目や、大学で専攻したいと考えている分野の科目を選ぶことができます。

通常は、3科目(最大4科目)を上級レベル(HL: higher level)、その他を標準レベル(SL: standard level)で履修します。IBでは、HL科目の学習に240時間、SL科目の学習に150時間を割りあてることを推奨しています。HL科目はSL科目よりも幅広い内容を深く学習します。これらに加えて、「課題論文」(EE: extended essay)、「知の理論」(TOK: theory of knowledge)、「創造性・活動・奉仕」(CAS: creativity, activity, service)の3つの「コア」要素があります。「コア」科目は必修で、DPの理念の中核を成すものです。

DPの科目概要では、コースを構成する主な要素として、以下について説明します。

- I. コースの説明とねらい II. カリキュラムモデルの概要 III. 評価のモデル



I. コースの説明とねらい

DPの「音楽」(2020年から指導)は、音楽を取り巻くグローバルな文化と産業が刻々と変化しているなかで、そうした世界に向けて21世紀の生徒たちの音楽の素養を養うために設計されています。

このコースは、音楽の学習に関連する知識、スキル、プロセスを基礎として構成されており、実践と確かな情報に基づき、多様な形式、慣習、文脈を目的をもって探究することを通して、生徒の創造性へのアプローチを高めていきます。また、コースのすべての要素において、演奏者、クリエイター、研究者の役割を同等に重視する包括的な学習のアプローチをとっています。

「音楽」のねらいは、以下のとおりです。

- 幅広い音楽的文脈を探究し、さまざまな音楽の慣習、規範、表現形式との関連を探る。
- 単独また協働の作業において、幅広い音楽の慣習、規範、表現形式を体験することで、音楽的能力を身につけ、育み、実験を行う。
- 自らの音楽および他者の音楽に対する、批判的な視点を評価し、発展させる。

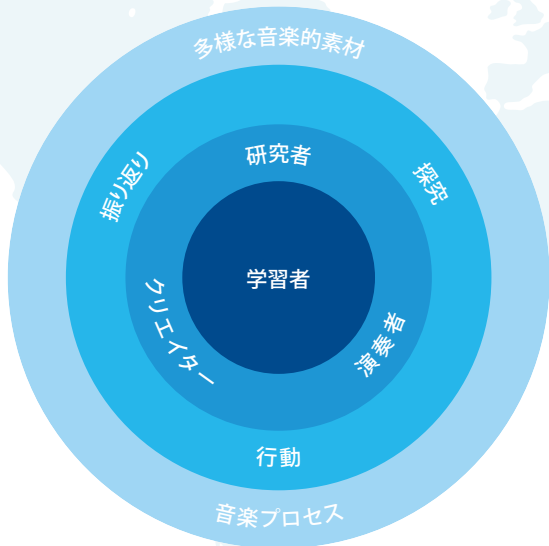
DPの「芸術」コースとの整合性

本コースのカリキュラムは、音楽の理論的な学習分野と実践的な学習分野のバランスを明確にすることで、DPの「芸術」の他のコースとの整合性を図っています。一連の新たな評価課題は、カリキュラムで体験するプロセスと役割に直接結びつくように策定されています。これらの厳格な課題は、取捨選択の要素を排除(ひいては、1つのスキルに特化して他のスキルをないがしろにしてしまう可能性を排除)し、実践的な音楽創作をすべての課題に組み込むことで、包括的な音楽的素養という概念の実現を目指しています。評価課題はコースワークとして提示されるようになり、内部評価と外部評価の間のバランスがもたらされています。SLとHLに共通の要素は3つあり、さらにHLでは、生徒が実際の音楽産業の慣行に沿った取り組みを行う発展課題が用意されています。

多様な音楽的素材への取り組み

新しい「音楽」コースは、個人的にも文化的にも多岐にわたる音楽的背景をもった生徒を受け入れることを目指しています。学習内容を指定するのではなく、生徒と教師が主体的に取り組み、音楽の形式、ジャンル、作品に対してそれぞれ独自のアプローチをとれるようにしています。この多様な音楽的素材の探究に焦点をもちますが、以下の4つの探究領域です。

- 社会文化的また政治的表現のための音楽
- 聴くため、演奏するための音楽
- 劇的なインパクトのための音楽、動きを伴う音楽、エンターテインメントのための音楽
- 電子・デジタル時代の音楽テクノロジー



学習と評価のための枠組み

これらの探究領域の取り組みは、3つの文脈（個人的な文脈、地域社会の文脈、グローバルな文脈）において行われます。これらの文脈を使うことで、生徒は、自分にとってなじみのある音楽的素材（個人的な文脈）から踏み出して、周囲の文化やコミュニティの音楽（地域社会の文脈）を体験し、これまでなじみのなかった音楽（グローバルな文脈）とも関わるできるようになります。そして探究領域をこれらの文脈と組み合わせた結果、「マトリックス」のようなものがもたらされ、生徒はそれを基礎として、さまざまな音楽的邂逅への道筋をたどることができるようになります。この新しい柔軟性は、学習、指導、評価に選択の余地を生み出すだけでなく、生徒の情熱や興味と、音楽および音楽創作という幅広い世界の間に関係を築く深いつながりをつくる効果ももたらします。すべての音楽的邂逅が、研究者、クリエイター、演奏者という役割で体験されるようになり、また指導と評価を通じて、音楽を探究、実験、表現するためのプロセスへとつながります。また、学問としての厳密さを期すために、生徒には、自分が取り組んだ音楽を批判的に分析し、この分析により導きだされた情報と結論を、創作と演奏の活動を通じて自身の実践的な音楽創作に応用するという要件が課されています。

「音楽」の授業で生徒は何をするのか



自らの音楽の世界を広げ、より幅の広い音楽創作につながるような刺激を与えてくれる多様な音楽への取り組み方を学ぶ



音楽の実験を通して、理論的研究を実技に結びつけ、取り組んでいる音楽についての理解を深める



研究者、クリエイター、演奏者として、音楽を伝達し、発表する

「音楽」の生徒はどのように評価されるのか

SLとHLの両方の生徒が提出する共通課題は以下のとおりです。

探究のポートフォリオ：多様な音楽的素材について取り組み、理解したことを実証する記述課題、および創作と演奏の実演課題

実験レポート：創作と演奏において音楽的な実験をしたことを示す実際の音楽的エビデンスを、論理的根拠とコメント（論評）の形式にまとめた記述課題

音楽の発表：創作と演奏の最終発表作品、およびプログラムノート

上記に加えて、HLの生徒は次のプロジェクトも提出します。

協働のプロジェクト：実生活に根ざした音楽プロジェクトについて、プロジェクト案、プロセスと評価、およびプロジェクトの成果やそれを編集したものをエビデンスとして含む、一続きのマルチメディアプレゼンテーション

コース修了時点で、生徒は以下を達成します。

- 多様な音楽的素材への取り組みを通して、音楽的な視野を広げる
- 多岐にわたる音楽を分析する
- コースの必修項目として音楽テクノロジーに取り組む
- 音楽創作に欠かせないプロセスに自信をもって取り組む
- クリエイターや演奏者としての経験をもつ、包括的な素養を備えた音楽家として成長する
- 自主的に取り組むスキルと協働スキルの両方を習得する
- 探究、振り返り、批判的思考のスキルを磨く

このコースは、次のような生徒に適しています。

- 音楽創作の理論的側面および実践的側面の両方に興味をもっている
- 作曲と演奏への創造的なアプローチに反応する
- 協働を重要視している
- DPの「芸術」コースを体験したい
- 大学で音楽を学ぶ予定である

II. カリキュラムモデルの概要

シラバスの構成	授業時間数	
	SL	HL
文脈に沿った音楽の探究 生徒は、自らの音楽の世界を広げ、より幅の広い音楽創作につながるような刺激を与えてくれる多様な音楽への取り組み方を学びます。個人的な文脈、地域社会の文脈、およびグローバルな文脈における探究領域から音楽に取り組むことで、多様で幅の広い探究を行います。	45	45
音楽の実験 生徒は、理論的研究を実技に結びつけ、取り組んでいる音楽についての理解を深めます。研究者、クリエイター、演奏者として理論的および実践的な作業に取り組むことによって、地域社会およびグローバルな文脈にまたがる探究領域から見いだしたさまざまな音楽的素材や刺激をもとに実験を行う方法を学びます。	45	45
音楽の発表 聴衆を前にした演奏または発表に向けて楽曲を練習し、その完成度を高めていくことを学びます。楽曲の完成に向けて取り組むことで、自らの音楽的アイデンティティーに広がりをもたせ、自らの音楽的能力のレベルの高さを実証し、研究者、クリエイター、演奏者として自らの音楽を共有し伝達することを学びます。	60	60
現代の音楽クリエイター (HLのみ) 「音楽」のHLでは、身につけた音楽能力を基に、現代の音楽創作の現場におけるさまざまな音楽的プロセスに取り組みます。このHL要素では、「音楽」コースで学ぶすべての音楽的役割における能力、スキル、そしてプロセスを必要とするプロジェクトを、実際の音楽創作のやり方からアイデアを得ながら計画し、協働で作りに上げていきます。	該当なし	90
総授業時間数	150	240

III. 評価のモデル

	外部評価 または 内部評価	SL	HL
文脈に沿った音楽の探究 生徒は成果物の中から抜粋する箇所を選択し、ポートフォリオ形式で提出します。次のものを提出します。 a) 多様な音楽的素材について取り組み、理解したことを実証する記述課題 b) 創作と演奏の実演課題	外部評価	30%	20%
音楽の実験 地域社会の文脈またはグローバルな文脈で2つの異なる探究領域の音楽を創作・演奏するための音楽プロセスについて、エビデンスを示す実験レポートを提出します。レポートではそれぞれのプロセスについて論理的根拠とコメントリーをまとめます。次のものを提出します。 a) 実験を裏づける実験レポート b) 創作と演奏の実験のプロセスを示す実際の音楽的エビデンス	内部評価	30%	20%
音楽の発表 生徒は4つの探究領域において多様な音楽的素材に取り組んだことを実証する一連の成果物を提出します。次のものを提出します。 a) プログラムノート b) クリエイターとしての発表：作曲および即興（またはそのいずれか） c) 演奏者としての発表：ソロおよびアンサンブル（またはそのいずれか）	外部評価	40%	30%
現代の音楽クリエイター (HLのみ) 生徒は自らが企画した実生活に根ざした音楽プロジェクトについて、次の点を示すエビデンスをマルチメディアでのプレゼンテーションにまとめ、提出します。 a) プロジェクト案 b) プロセスと評価 c) プロジェクトの成果、あるいはそれを編集したもの	内部評価		30%
		100%	100%

IBについて：IBは、過去50年以上にわたり、質の高いチャレンジに満ちた教育プログラムとしての定評を築いてきました。国際的な視野をもって21世紀の現実の課題に対応することで、より良い、より平和な世界の創造に貢献していくことのできる若者を育成しています。

DPについての詳細は、IBのウェブサイト (www.ibo.org/en/dp) でご覧いただけます。

『指導の手引き』の完全版は、IBのプログラム・リソース・センターからアクセスできるほか、IBストア (store.ibo.org) でご購入いただけます。

DPが大学での成功に向けた素地づくりにどのように貢献するかについては、IBのウェブサイト (www.ibo.org/en/university-admission) をご覧ください。